

事前アンケートのまとめ

資料2

	事前資料1から3を踏まえて、茅ヶ崎市の自殺対策に必要なと感じる事についての御意見	その他のご意見
鈴木委員	幅広い分野、領域への啓発活動の継続など、現行施策と取組の継続が着実に推進することができればと考えます。	なし
山本委員	茅ヶ崎市の自殺対策計画はうまくいっている。これをさらに推進するためにはなにが必要か検討してみたい。 1.減少しているが男性の自殺が多い—仕事のストレス孤独感などがきっかけと考えた。—周囲のコミュニティとのつながりが手がかりになると思う。 2.女性の50代の増加—家庭、近隣の人間関係などがきっかけと考えた。—家庭内での女性の負担が多い。家族の理解と協力が必要になる。—社会ネットワークが活用できないか。 3.学生の増加—いじめ問題とステイホームで友だちと顔を合わせることができなかったことがきっかけと考えた。—ICTの活用と学校生活の正常化で改善できないだろうか。	世界のレベルで見るとコロナパンデミック期間に自殺率が減少した国の方が多い。一方日本では増加している。この中で自殺率の減少した茅ヶ崎市の取り組みはよかったと言えると思う。
今井委員		
朝倉委員	自殺者が減少傾向である旨は確認できました。しかし、どのような要因で減少傾向が示されたかわからず、今後、どのように考え取り組んでいけばよいか発言できません。仮説は提案できませんか。	なし
海野委員	自殺対策について、市が行なっていることの認知度が低いのではないのでしょうか。重層的支援体制整備事業における地域ネットワーク会議を活用するなど、もっと地域に出て行って周知することも必要と思います。生活困窮者に対する行政、各関係機関との連携。各事業所におけるメンタルヘルス、ハラスメント対策の推進。	なし
濱田委員	1 自殺対策の広報活動の継続と充実 自殺対策計画があまり市民に知られていない。 2 ゲートキーパーとなる包括職員等の研修開催 3 こころのサポーターの広報活動 認知サポーターの様なシンボルマークがあっても良いのではないか	冊子に記載されているQRコードはとても良いと思います。茅ヶ崎駅の高架橋で、自殺予防の旗を見かけた事があった。何となく違和感があったが裏を返せば、目に止まったと言える。
丸山委員	地域における独居高齢者の見守り対策が必要と考えます。 一例を挙げますと、海岸地区(東海岸)では海岸地区民児協と包括支援センターあいが独居高齢者見守りネットワークを構築し、現在210名の独居高齢者の見守りを実施し、必要に応じて各自治会にも見守り依頼をしています。独居高齢者に限らず孤独、孤立対策には地域の方々の支援が必要と考え、行政と地域(自治会、民生委員)との連携強化に期待します。	なし
國分委員	茅ヶ崎市の自殺対策計画の基本方針の市民への啓発と周知を丁寧にししっかりと取り組むことが、まず大事になると思う。基本施策や重点施策を取り組むことによって、茅ヶ崎市の自殺死亡率を下げることに繋がると考えます。	なし
常盤委員	なし	なし
藤崎委員	原因分析は、プライバシーの関係などもあり難しいとは思いますが、自殺対策を考える上では重要なことですので、警察や病院などとも連携して、少しでもそのようなことが進むとよいと思います。 茅ヶ崎市の対策のひとつとして「働く世代対策」がありましたが、この対策を引き続きよろしくをお願いします。 自殺対策講演会の開催ができるとよいと思います。	委員の一人ひとりが自殺対策委員であることの自覚を強く持つためにも、2ヶ月に1回程度の情報連絡や依頼などがあるとよいと思います。
有本委員	資料から、茅ヶ崎市の対策に必要な事があまり見えてこない。 資料1からは、減少という言葉が多くつかわれているが、数字上の話での減少はとても良い事だが、数字だけで判断するのは怖い事だと思う。それよりも、この中の亡くなられた方が、市内の何か相談機関を利用できたのか、SOSを少しでも出すことができたのか、大切な部分はそこであると考え。そこが見えてくれば、対策を更に強化できるのではないかと個人的には思う。 現代は、子どもの不登校でも理由がないものも多い なんとなく、生活がづらい、生きているのが辛い、という方は今の時代沢山居ると思う。家の中にこもれば、不安になり外との繋がりをもちたいとおもう。 そんな時に気軽に相談できるような茅ヶ崎独自の取り組みがあればと思う。	なし